

## 心遣いのジャーナリストが紡ぐ映像の力～美樹さんへのお手紙風レポート～

ゆきゼミ修士1年\_医療福祉ライター\_今村美都

言葉には言葉の力があるけれど、言葉で言い表せないことを表現する映像の力には、とてつもない吸引力がある。人を動かす力がある。

だからこそ、木を一つひとつ彫って、そこから作品を浮かび上がらせていくように、現場で起きていることから、映像を積み重ねて、そーっとそーっと、丁寧に、対象への温かな眼差しと真摯さで一つの作品を浮かび上がらせていく。

ただでさえ傷ついた人たちを、ただでさえ困難な状態にある人たちを、さらに傷付けてよいはずはない。たとえ大事なことを伝えるためにであったとしても、社会的意義があったとしても、

目的のために協力を仰ぐだけでなく、その心を慮り、よりよい方へと向かえるよう心を尽くす。

美樹さんのジャーナリストとしての心遣いに、心打たれた。

繊細な現場へ向かうときは、心遣いのできるカメラマンと音声さんとタッグを組む。カメラマンがあちらを撮っていても、音声さんはこちらの「つぶやき」や「その瞬間にしか拾えない音」を拾う。だから音声もとても大事だという。

見落とされがちな「つぶやき」をそっと拾える感性。言葉以上に語ってくれる表情や動きを逃さず写し撮る感性。ここにもジャーナリストとしての心意気を感じた。

ジャーナリズムは、誰かを傷つけるためにあるのではなく、声なき声を拾い、社会に問うことにこそあると、心が熱くなった。

テレビが、だたうるさいものを感じられて家の中から葬り去ってしまったのは、もう5～6年前か。実はわが家にはテレビがない。美樹さんの番組づくりへの姿勢を聞いていたら、テレビの世界にもこんな志あるジャーナリズムがまだまだ生きているのではないかとホッとした。NHKの番組は観たいと思うことが少なくなく、録画を頼んだりして観ている理由がよくわかった。

『ユマニチュード』のDVDの一部を観せていただき、ますます美樹さんのほかの作品も観てみたくなった。テレビのある生活に戻るか否かはもう少し熟考するとして、美樹さんがこれから新たに掘り出していく作品たちにも大いに期待しています。

ゆきさんの無茶ぶりに応えて、ゲスト出演していただき、本当にありがとうございました。

